

脳神経外科（認知症専門医）

2024年8月より倉敷記念病院でスタート

もの忘れ外来 開設のお知らせ



日本認知症学会専門医：寺坂 薫医師

もの忘れ外来とは？

もの忘れ外来は、記憶力や認知機能に関する問題を診断し、治療する専門の診療科です。加齢による生理的なもの忘れと、認知症などの疾患によるもの忘れを区別し、適切な対策を講じます。

こんな症状ありませんか？

- 最近の出来事を忘れやすい
- 会話の内容をすぐに忘れる
- 約束や予定を忘れることが増えた
- 同じ質問を何度もする
- 物を置いた場所を思い出せない

診療内容 初診時の流れ

問診：現在の症状や既往歴、生活習慣などを伺います。



認知機能検査：もの覚え、計算など認知症の評価をします。



血液検査：認知症を引き起こす可能性のある血液検査を行います。



脳画像検査：必要に応じてMRIやCTスキャンを行います。



診断：問診と検査結果、画像などをもとに、専門医が診断を行います。



倉敷記念病院

医療法人 誠和会

治療方法

薬物療法：認知機能の悪化を少しでも予防する薬を処方します。

生活指導：日常生活での対策や家族へのサポート方法を指導します。

診療時間 金曜日 14:00～16:00

予約方法 電話予約：086-465-0011
予約時間：平日 8:30～17:00

なお、当院では認知症の前段階（MCI）に対する
新薬（レカネマブ）の投与も行えるように準備しています。

レカネマブは、アルツハイマー型認知症の治療を目的とした抗アミロイドβ（Aβ）抗体です。アミロイドβはアルツハイマー病患者の脳に蓄積する異常なタンパク質であり、これが神経細胞の損傷を引き起こします。レカネマブはこのアミロイドβをターゲットにして、その蓄積を減少させることを目的としています。

臨床試験

臨床試験結果：臨床試験では、レカネマブがアミロイドβの蓄積を有意に減少させ、認知機能の低下を遅らせる効果が示されました。

副作用：一般的な副作用には、頭痛、倦怠感、注射部位の反応などがあります。また、一部の患者では脳浮腫や出血のリスクが指摘されています。

まとめ

これらの新薬は、アルツハイマー病の治療において重要な進展を示していますが、完全な治療法ではなく、病気の進行を遅らせることを目的としています。患者さんやご家族は、医師と相談の上、治療法を選択することが重要です。また、これらの新薬は副作用のリスクもあるため、綿密な監視と適切な管理が必要です。

